

光といのち

第71号 お盆
2011年7月13日発行

発行所
真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメールino-teyy@khaki.plala.or.jp

住職 井上孝昌

法語

我がこころの
よくて、
殺るさすには
あらず。

歎異抄』

然に敵兵は引き返し、殺さずにするんだ。

その時の心境を後で振り返り、撃たなかった理由をいろいろ考へ、我がこころのよくて殺さずにはあらず」と、歎異抄』からこの言葉を引用しています。

自分の行為は自分の意志が決められていると、それまで疑いなく思っていたので、この言葉は意外でした。しかし、なぜかそこに真実味を感じたことを覚えています。

歎異抄』では、この言葉に

続いて「また害せじと思ふとも、百人千人を殺すこともあるべし」とあります。縁があれば殺意はなくても大勢の人々を殺してしまうこともあると。そしてさらに親鸞聖人は、さるべき業縁のもよおさば、いかなるふるまいもすべし」、条件さえ整えばどんなことでもしてしまう私たちがであると仰っています。

今回の原発事故の顛末で、個人の意志や努力ではどうにもできないところを生きている人間の姿が、顕わになったように思われます。被曝が原因の死者こ

例年より早い梅雨明け、夏本番に突入しました。

いかがお過ごしでしょうか。

今回の原発事故が起きるまで、科学技術を信じ原子力発電は安全だと思ひこんでいました。豊かで快適な生活に耽り、無意識に放射能禍の恐ろしさに目を塞いでいたようです。広島や長崎の原爆、第五福竜丸の被爆、スリーマイル島やチェルノブイリの原発事故、東海村の臨界事故で、その惨状を知っていたはず

なのに・・・。未だ収束できないでいる福島第一原子力発電所の事故は、科学を絶対化し信じてきたことが誤りであったと、証明し続けています。

法語は、親鸞聖人が弟子唯円に仰った言葉として「歎異抄』にあります。

はじめてこの言葉に私が接したのは、高校時代に大岡昇平の『浮城記』を読んだ時のことでした。太平洋戦争に従軍した作者のフィリピンのミンドロ島での体験が書かれた本です。

部隊からはぐれ草むらに潜んでいた時に、若い敵兵がだんだん近づいてくる。必ず戦死するのだから撃つまいと思うが、さらに近づく敵兵に無意識に銃の安全装置をはずしてしまう。偶

そ出ていませんが、害せじと思ふとも、百人千人を殺すこともあるべし」という言葉が想起されるような事態が起きています。あれから四ヶ月が過ぎましたが、その災禍は今も続き世界中に影響を及ぼしています。

この事実を踏まえれば、原発をどうするかは自明の理です。

私たちはこれまで、競争に勝ち欲望を満足させることが人生の目標であるかのように思いこみ、そうした時流に流されていたようです。

今こそ、真（ほんとう）の生き方を、一人ひとりが真剣に求めなければならぬ時節だと思います。

仏教、とりわけ親鸞聖人の頭かにした浄土真宗は、そのために一番たよりになる宗教だと、私は思っています。

八月十日（水）十時

うらぼんえ
盂蘭盆会

ご家族皆様でお参り下さい。

五月の華山場（裏庭）





去る五月二十五日（水）から二十七日（金）の二泊三日、千葉組一行百八十五名、当寺からは十三名が参加しました。

東本願寺御影堂親鸞聖人の御前で四千人近くの方々と正信偈を唱和し、無限の歴史と広がりの中の南無阿弥陀仏が、今わたしを生きていると実感する法要をお勤めしてきました。

保津川下りや長良川の鵜飼、宿での懇親会も楽しく、「こんな旅行がまたあるといいなあ！」との声もあがりました。

親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に参加させていただいて

蓮沼 典子

同朋の会に入れていただいて日も浅く、真宗について何も知らない私のような者が、このような宗門にとって重大な行事に参加させていただけたことに心より感謝いたしております。

参集された人々は皆様深く宗門に帰依され日々の行いも正しい方々ばかりなのだ、圧倒される思いで私はこの身が恥ずかしいと思いました。参加の動機は只の好奇心だったからです。

しかし、時間が経つにつれてどこか安堵している自分が居りました。そして普段は歴史的建造物ぐらいにしか思っていなかった東本願寺の中に足を踏み入れ、整然とした人の流れに導かれてお堂に入り、着席して御真影に向かい、ああこの方があの親鸞聖人様なのだ目に焼きつけました。

正信偈唱和の声が湧きあがる中、いまだ身についていないお経の中の言葉を細々と唱えていると、もっと早くこういう場所に居るべきではなかったかと後

悔に似た思いにとらわれました。後悔先にたたずです。

金木庸一

煮ても焼いても喰えない自我というものにとりこになって生きて来て、今この年になって深く腑に落ちる言葉の数々に会える真宗の門の中に入れていただけることがとてもありがたく、感謝いたしております。

楽しい企画を立て準備に奔走して下さった役員の皆様、道中、陰になり日向になり見守り続けて下さっていた各寺の御住職の皆様にご心より感謝申し上げます。

御遠忌法要に参加して

私も四年前に還暦を過ぎました

が、少しは先祖のことや菩提寺である二部・勝善寺のことについて関心を持たねばならないと思うようになってきました。

数年前に勝善寺の世話人会に初めて出席しましたが、その時には地元の世話人のみならず、南地区、岩井地区や平群地区から大勢集まっております。次第です。

浄土真宗の大事な行事である「報恩講」について、今までは地元の一部や検儀谷の檀家の皆さんが中心になって執り行っていたのを見直そうとの住職の意向の中で会議が開かれましたが、昨今の状況の中でいつまでも地元の皆さんにお願いするのはなく、我々のような他地域の世話人も一緒になって執り行うことになったことは本当に良かったと思っております。

でも、法名の見直しだけは、世間体や先祖に申し訳が立たないなど、多くの世話人さんも同様にわだかまりがいっぱいで本当に心が落ち着きません。



この度、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の七百五十回御遠忌法要が京都・東本願寺で執り行われるために、真宗大谷派千葉組として参詣する募集案内が届き、私は一足遅く申し込みをしましたが、ご住職の配慮により参加できました。私は今回参詣した門徒の皆様と一体になった気がして感謝しています。

京都、私が国内で一番好きなのは御影堂内に入らずに入口で立ったまま合掌し、願い事を祈願するだけの行為でありました。その時に、祈願のお札を購入しようとする寺務所で尋ねたら、当寺ではお札はありません。親鸞聖人ご執筆の『正信偈』を購入頂



いて朝晩お勤めしてください。」と言われ恥をかいたことがあります。

しかしながら、今回は県内の真宗のご住職の引率で皆同じ目的をもって合掌し、それぞれの思いで正信偈を唱えてきたことでもあります。

私は旅行が好きで、国内のみならず支那、南朝鮮、モンゴル、台湾、東南アジアそして欧州各地など19歳の春から52回ほど旅をしてきましたが、行く先々では必ず寺院や教会等を訪ねて仏教式に合掌・礼拝をして我が家の安寧を祈願してきました。

特に印象に残るのはモンゴル訪問で、私の親友の家を訪れた時にその家の父親が私のためにラマ教の40歳代の坊さんを自宅に招へいして祈願の読経をしてもらいました。彼は厚さ20cm位ある経文を、百人の煩惱と同じ数の数珠を手で操りながら読経してくれました。読経が終わった後は一緒にお酒を酌み交わし、日蒙親善に努めることができました。真宗のお坊さんと同じように真面目な中にもユーモアあふれる僧侶でした。また、昨年モンゴルを訪れた時は、親友の従弟（20歳）がシ

ャーマンになるための儀式に参列できました。その儀式は4日ぶっ通しで開催されるようで、モンゴル中から親戚縁者や従弟の親友が60人ほど集まっています。小高い林野の空き地にゲル(移動式住居)を4基建てて、その中の一つのゲルで儀式が始まりました。私もゲルの中に入って見学することをシャーマンから許されました。

シャーマンは、休憩時間中に私のために我が家の繁栄と健康そして宝くじも当たりますように占ってくれました。儀式が終わったら、シャーマンは私に占ったことを通訳なしの日本語で、貴方のモンゴルの旅も明日で終了するようですが特に心配することはないし、道中無事に日本に帰れます。あなたの将来は明るいものがあり、いずれ宝くじが幸運をもたらすでしょう。」と説明してくれたので、私は日本語による説明に驚くとともに感謝の気持ちを伝えました。そのシャーマンは一般的に考える仙人のようなお年寄りではなく、20代後半のイケメンで、国立モンゴル大学日本語学科を

2年前に卒業したエリートですが、卒業後に日本人と会話したのは私が初めてだと言っていました。

私はどちらかと言うと儀式にこだわらないB型の自由・開放主義者ですから、海外旅行中の先々で出会った寺院や教会等を参詣しますが、その度に合掌し我が家の安寧を祈願しますが、十字を斬ったり、支那人のように大げさな礼拝やラマ教での五体投地をしなくとも皆さん理解してくれます。

ところで、真宗のご住職の皆さんは中々俗世界に通じておられるから他宗派のご住職よりお付き合いと申すかお話ししやすい皆さんとお見受けしました。私は今回の宗門の皆さんと宗祖・親鸞聖人の御遠忌法要に参画できてひとつ大人になったような気持ちであります。

これからも、変り者の勝山育ちの私をよろしくご指導頂きましたと願いつつ、筆を置きます。

南無阿彌陀仏！南無阿彌陀仏！
南無阿彌陀仏！南無阿彌陀仏！
南無阿彌陀仏！南無阿彌陀仏！

合掌

勝善寺での親鸞教室

五月十七日（火）に、千葉組主催の本年度第七回目の教室が当寺でありました。



門徒会員の音頭で同朋の会や世話人の方などが、パイプ椅子を並べたり掃き掃除をしたり、受付をしました。写真は受付の準備をしているところです。
当寺からは十八名の方々が参加し、県内各地の寺院から集まった八十名ほどの方と、海法龍先生の正信偈についてのご法話を聴聞しました。

奉仕作業

世話人と同朋会の方々と、六月二十六日（日）に実施しました。都合により本年は地元老人会の当寺旧跡地の草刈りと別の日取りになりました。



八時半に勝善寺橋駐車場に集合し、草刈り、掃き掃除、ガラ

ス拭きをしていただきました。

この日の参加者は、次の方々です。なお敬称は略します。

- 足達 崇 池貝房子 石井和夫
- 狩野芳子 大胡登美子 大胡睦恵
- 川名アツ子 川名昭治 川名登支江
- 川名喜昭 久保賢祐 重田和夫
- 重田澄子 鈴木正一郎 関口昌司
- 高梨維夫 田中昭一 田村晋一
- 富永昇一 永井正一 中川克子
- 西尾のぶ子 能重初雄 能重実
- 蓮沼典子 蓮沼美栄 堀海栄子
- 増田征夫 住職 坊守

トイレの増設

報恩講などの行事に、大勢の方が集まるようになり、休憩時間にはトイレが混雑し、不便をおかけしていました。写真は、増設したトイレの外観です。入り口は内部にあります



報恩講
報恩講は、浄土真宗のご門徒の一番大切な行事で、主催はご門徒です。
今年の当番地区は、二部上地区と中地区です。
よろしくお願ひします。

行事予定

- 8月10日10時〜 孟蘭盆会
- 9月23日10時〜 秋彼岸会
- 10月9日15時〜 同朋の会
- 10月11日13時〜 **親鸞教室①**
- 10月16日13時30分〜 **世話人総会**
- 11月10日13時30分〜 仏具お磨き
- 11月18日13時30分〜 準備・速夜
- 11月19日10時45分〜 **報恩講 昼**
- 12月1日13時〜 **親鸞教室②**
- 12月11日15時〜 同朋の会
- 12月31日 除夜の鐘
- 12月未定 **婦人研修会**
- 1月2日10時〜 修正会
- 1月8日9時〜 八日講
- 1月10日9時〜 十日講

・・以外は当寺が会場です。どうぞ、ご参加ください。

礼拝の作法
仏様を礼拝する際は、必ずお数珠（お念珠）を手にかけて合掌します。